

インシデント・コマンド・システム 標準化検討ワーキンググループ について

内閣府(防災担当)

1

ワーキンググループ設置の趣旨

- (1) 5月10日の衆議院災害対策特別委員会において、古屋防災担当大臣が「アメリカのインシデント・コマンド・システムを参考にしながら、何が取り組むことができるのかなということ、関係省庁とも連携をして勉強をしていきたい」と発言。
- (2) 6月5日以降、自民党災害対策特別委員会にて、危機管理の標準化の取り組みについて議論。
- (3) 6月14日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針」(いわゆる、「骨太の方針」)にて、「広域応援等を円滑に実施するための災害対応の標準化に向けた検討(中略)を進める」旨記載。



以上を踏まえ、アメリカのインシデント・コマンド・システム等を参考にしつつ、我が国の現状に合わせたICSの標準化や課題等について、関係省庁と連携して検討し、標準化可能な事項の推進を図る。

構成

内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省、国土交通省、海上保安庁、防衛省の課室長クラス

(内閣官房(事態室)はオブザーバーとして参加)

(必要に応じ、その他省庁から正式メンバー又はオブザーバーとして参加)

2

標準化検討対象事項(案)

1. 現地調整所(仮称)業務の標準化(マニュアル化)
2. 各実動部隊の基本情報の共有化
3. 現地における活動情報の共有化
4. 通信手段の共有化
5. 資器材及び資源の共有化
6. 回転翼機の運用調整組織の標準化(マニュアル化)
7. サイレントタイムの設定
8. 省庁相互のリエゾン派遣

3

1. 現地調整所(仮称)業務の標準化(マニュアル化)

- ① 現地調整所の機能
- ② 活動内容(活動時間、活動範囲、部隊の交代等)の基準
- ③ 各活動機関(実動部隊)への任務割り当て方法
- ④ 相互協力・補完の申し出方法
- ⑤ 現場部隊の集合・調整場所(警察署、消防署、指揮車等を想定)
- ⑥ 現地調整者の選定方法
- ⑦ 現場指揮官の名称等

4

2. 各実動部隊の基本情報の共有化

- ① 利用可能な拠点、施設及び附帯機能
(各部隊が使用契約を締結している土地、公園、ヘリポート等)
- ② 各実動部隊が行う災害応急対策業務
(各実動部隊が行う本来業務、本来業務ではないが実施可能業務、等に分類)

3. 現地における活動情報の共有化

- ① 用語(活動場所の呼び名(例:指揮所or本部))
- ② 報告書等の様式・項目
- ③ 報告書等のデータ形式(例:ワードor一太郎)
- ④ 活動情報に係るデータの共有化
- ⑤ 活動場所や被災箇所等の地図等への表示方式
- ⑥ 地図のデータ形式
- ⑦ 電子地図情報化及びその共有化(例:電子国土ポータル(国土地理院))

5

4. 通信手段の共有化

- ① 無線機
- ② 周波数
- ③ 呼出名称・符号

5. 資器材及び資源の共有化

- ① 食事、入浴、天幕、ストーブ、燃料等
- ② 応急活動用資器材

6. 回転翼機の運用調整組織の標準化(マニュアル化)

- ① 運用調整組織の機能
- ② 活動内容(高度、区域)の調整
- ③ 運用調整組織の設置場所
- ④ 現地調整者の選定方法

7. サイレントタイムの設定

- ① 部隊間での設定に係る意思統一の方法
- ② 各機関への伝達方法
- ③ マスコミ等への要請方法

8. 省庁相互のリエゾン派遣

- ① 派遣の調整方法
- ② 派遣の時期・場所